

# 銀杏企画三丁目の掲示板

[トップページへ戻る](#)

Name 国士無双	e-mail
Title	
Message	
<input type="button" value="とうこう"/>	

[1659] すいません、ついインテリぶってしまいました 2009年11月8日 10時27分

ブルーアイズさん e-mail

こんにちは。ブルーアイズです。

1657番の書き込みで「オプティズム」を「オプティズム」と書いてしまいました。すいません。国士無双さんの書き込みを読んで、学のないブルーアイズもちょっとインテリぶって書き込みましたが、とんだ間違いでお笑い話です。みなさん、ブルーアイズのことを笑ってやってください。

[1658] 「アバンチュールはパリで」 2009年11月8日 7時43分

レオンさん e-mail

「アバンチュールはパリで」(韓国映画)を観ました。

この映画は、何が言いたいのか、私には良く分かりませんでした。ただ、韓国の女性(俳優)がいかに魅力的か。この映画を観ていると、それが伝わってきます。

この映画には、画家(主人公)と「北韓」の人(韓国の方は、朝鮮民主主義人民共和国(「北朝鮮」)のことを「北韓」と言うようです)がケンカをするシーンが出て来ます。私には、それが「面白かった」です。そのシーンを見て、私は『出張先は北朝鮮』というようなマンガ(作品社)のことを思い出しました。

[1657] オプティズムという意志 2009年11月7日 11時2分

ブルーアイズさん e-mail

おはようございます。ブルーアイズです。

国士無双さんの書き込み拝見しました。  
ブルーアイズも自分を振り返って「希望の可能性を十分吟味せずにペシミズムの殻に閉じこもって」いることに気づきました。  
挫折、絶望ということは何回も味わいましたが「オプティズムという意志」を大事にしようと思います。  
ところで中島みゆきの「重き荷を負いて」という歌、ブルーアイズも知っています。

♪ まだ空は見えないか まだ星は見えないか  
ふり仰ぎ ふり仰ぎ そのつど転けながら  
重き荷を負いて 坂道を登りゆく者ひとつ  
重き荷は重く 坂道は果てもなく続くようだ  
がんばってから死にたいな がんばってから死にたいな  
這いあがれ這いあがれと 自分を呼びながら 呼びながら

いい歌ですよ。

[1656] シーシュポスの神話② 2009年11月6日 22時23分

国士無双さん e-mail

国士無双です。

ある批評家は次のように批評しています。

希望の可能性を十分に吟味せずにペシミズムの殻に閉じこもることが不健康であるのと同じように、絶望しきっていないオプティズムには、軽薄臭が漂う。

オプティズムとは、まったくもって「意志」の問題なのである。死や病を免れ得ない人間にとって、悲観主義こそ「自然」で「生来」なものなのであって、オプティズムとはそれを超えていく意志のことなのである。「これから直面する難題を創造的に解決する」ためには、我々一人ひとりがオプティズムという「意志」を持つことがどうしても必要不可欠なのだ、ということ、僕はいまも相変わらず言い続けたいのである。

逆説的に言えば、あらゆる明るい見通しが凋落した現在こそ、真のオプティズムの時代であると言えるかもしれません。

とのこと。

私もどちらかといえば、ペシμισティックですが、何とか、オプティズムで生きて行きたいものです。

[1655] シーシュポスの神話① 2009年11月6日 22時18分

国士無双さん e-mail

度々、国土無双です。

私の学生時代好きだった作家にフランスのアルベール＝カミュがいます。  
カミュの書いた「シーシュポスの神話」の中に次のような一節があります。

天のない空間と深さのない時間とによって測られるこの長い努力のはてに、ついに目的は達せられる。するとシーシュポスは、岩がたちまちのうちに、はるか下のほうの世界へところがり落ちてゆくのをじっと見つめる。その下のほうの世界から、ふたたび岩を頂上まで押し上げてこななければならぬのだ。かれはふたたび平原へと降りてゆく。(中略)この男が、重い、しかし乱れぬ足どりで、いつ終りになるかかれ自身ではすこしも知らぬ責苦のほうへとふたたび降りてゆくのを、ぼくは眼前に想い描く。いわばちょっと息をついているこの時間、かれの不幸と同じく、確実に繰返し舞い戻ってくるこの時間、(中略)かれは自分の運命よりたち勝っている。かれは、かれを苦しめるあの岩よりも強いのだ。

(カミュ『シーシュポスの神話』清水徹訳 新潮文庫 1969年7月初版 2006年9月改版 pp.212-213

この文章をある批評家が現代に当てはめています。

[1654] [1654]の訂正 2009年11月6日 21時51分

国土無双さん e-mail

国土無双です。

中島みゆきの曲は「重き荷を負いて」でした。  
訂正します。

[1653] 重き荷を背負いて 2009年11月6日 21時36分

国土無双さん e-mail

今晚は、国土無双です。

中島みゆきの「重き荷を背負いて」という曲に以下のような詩があります。

♪掌の傷口を握るのが精一杯  
愛をひろう余裕もなく 泥をひろう余裕もなく  
ひび割れた唇は噛みしめるのが精一杯  
過去を語る余裕もなく 明日を語る余裕もなく  
がんばってから死にたいな がんばってから死にたいな ♪

「ララバイシンガー」というアルバムに収録されています。

[1652] 「現実的になれ」何と寂しい・・・ 2009年11月4日 19時49分

ブルーアイズさん e-mail

こんばんは。ブルーアイズです。

ブルーアイズは今トライアル雇用の途中ですが、もしかすると正式採用になるかもしれません。

しかし現実的に考えると定年まで約十数年しかなく、その間は生活するだけのお金をカツカツながら稼げるかもしれませんが、そのあとはせっかくがんばっても行政のお世話になる、すなわち生活保護で暮らしていくよりありません。

余裕のある老後を過ごされている団塊の世代の人たちを見るとうらやましくて仕方ありません。

誰かが世の中で一番寂しい言葉は「現実的になれ」という言葉だとなにかの本で言っていました。

ブルーアイズの現実的な生活とはなんとも寂しい……

[1651] ドイツでは、捨てられた動物を殺していないらしい 2009年11月3日 19時51分

レオンさん e-mail

『朝日新聞』(2009年11月2日朝刊)の「声」欄に、「ドイツ見習って犬猫救おう」という投書が載っていました。

それによると、「ドイツでは捨てられた動物たちを殺していないらしい。「動物の家」という家が500以上あり、そこには犬猫以外にも色々な動物がいて新たな飼い主を待っている。飼い主が決まらなくても、いつまでも暮らせるという。」ことです。

[1650] [1648]の訂正 2009年11月3日 17時44分

レオンさん e-mail

[1648](2009年伊香保旅行③)。本文中、上から、3行目。「ピンクレディー」を「ピンク・レディー」に訂正します。

まえのページ

あたらしいページ

パスワード

削除番号

1659

記事削除

powered by **du one**  
NET